

ADULT  
ONLY

3隊長  
拘束調教  
2





「パリジャケ姿は3人の中じゃお前が一番可愛いな、はやて。これからその凛々しさと愛らしさを兼ね備えた極上魔導師姿を、たつぷり愛でてやるからな。お前のカワイイ尻に当たってる。お前のカワイイむちむちまんこに、たつぷり沈めて、堪能させてやる」

「ハ…イ、バインドに屈服し、ろくに抵抗出来なくなつたSSランク魔導師はやてを、思う存分蹂躪してください…」

（演技…演技や、従順に落ちたフリをしてこの催淫拘束バインドも必要無くなつたとこの人達の油断を生みだす為、今は術中にある様に思わせるんや…）

（でも…こんなたくましいモノ入れられたら…私…どうなってまうんや…）

（それにこんな男らしく体を抱きかかえてカワイイなんて繰り返し言われたら…おまんこだけやなくて胸の奥まで…切なくなつてきてまう…）



「パイプぶっ刺されたプリケツを  
どうぞご自由に弄んでくださいってな感じで  
男に差し出す  
これがメスブタ奴隷オンナの礼儀作法だ  
しっかり身に付けろよ はやて」

「おちんぼの熱気が…!!  
この距離でお尻に伝わってくる…!!  
ケツ穴こじ開けられて、  
おまんこほじ開けられて、  
さつさと行為に移つてこの人満足させて  
このままじゃおまんこ本気で疼いてこつちの  
本気でおちんぼおねだりし始めてしまう!

「ハイ!ハイ!覚えましたから  
早く!早く!パイプだけやなくて  
貴方のおちんぼ!はやでの濡れ濡れおまんこに  
ぶっ刺して下さい!この情けなくもまない  
惨めなケツ穴パイプぶっ刺されたい状態の  
はこのまま…このままおまんここれイブしてやあ!





オラ！イクぞ！はやて！  
奴隷のお前に俺の  
ラブラブザーメンぶっ放してやる！  
イクぞイクぞイクぞ！

ハイ！ハイ！  
たくましいあなたの  
たくましいおちんぼの  
たくましいおちんぼミルク！  
御遠慮なく大量発射してえ！

演技…！これは…  
演技…やあ…！！

あ…！ありがとうございます！  
ありがとうございます！！！！！！

オラア！テムエは最高だ はやて！  
最高の美少女魔導師だ！  
俺の濃厚スperlマ褒美に食らえ！

そら  
上の口でもしっかり  
俺のスperlマの味を  
覚える奴隷！

びびッ！

なんて太いおちんぼと…  
芳醇な…ザーメン…♡

油断させ、隙を生みださせる…  
 そんな機会は巡ってこず、  
 気が遠のくほど犯されつくされ、  
 言葉で蕩けさせられ  
 気が付けば惨めにも全裸で天井から吊るされていた…

「お前の目論見なんぞ読めてんだよ、このメスタヌキ。  
 この俺とお前がまぐわいまくった淫臭と熱気が籠った  
 この密室に吊るし放置しておいてやるから  
 しつかり男に抱かれる事しか考えられない  
 S S ランク熟成メスタヌキに成り果てやがれや  
 ブタはやて」

こんな…何しても敵わんうえに、考えも見透かされて  
 なお且つ全身に精液浴びせられて男を知らしめされた状態で  
 拘束放置なんてされたら…ホンマに…言われた通りの  
 S S ランクメスタヌキに…熟成されてまう…  
 S S ランク熟成メスタヌキ・八神はやてになつてまう…  
 そうやって男の人に御挨拶する日…きつと来てしまふ…





「インパルスフォーム姿つてのも  
凛々しくてそそるぜ執務官さん  
その凛々しくも縄食い込ませて股濡らしまくった  
無様な姿でこのチンポにしつかりご挨拶しな  
この間樂じませてもらった礼も込めてな」

「あれはこのバインドの所為：  
今のこの状態も…」

「パリジヤケ纏って精神的にも凛々しくなつたつもりか？  
ところで高町教導官もお前と同じ事に遭つてると思うが  
何処でどういう事になつてるのか  
知りたくないかな執務官さん？」

「……」

「どうしてもツツパるつてんなら  
お前はそのまま放置して  
お前を泣かしたこのチンポ、なのはなり  
はやてなり恵んでやるだけだぜ  
どうする？」

「……」  
「こんな股間に縄が食い込んだ  
状態で放置だなんて…  
とても耐えられない！」

そう…なのはを  
救わなくっちゃ…

これは  
なのはの為…

その為にはまず  
この男を満足させて  
なのはの事を  
聞き出さないと…

なのはの為に  
今は従うしか…

ちよつと口実を与えれば  
すぐ自分からチンポを  
しゃぶりつきたがる！

そのお前のどうしようもない  
天性のマゾ性癖！  
とつぐに見切られてんだよ！

引つ掛かりやがったな！  
このマヌケなマゾ豚が！

ふごオオ！

んっ！  
ぐっ！  
んっ！  
ぐっ！

顔面にスperlマ  
浴びせまくってやるから  
豚思いやがれ！  
フェイトオ！

ふふおおおッ！

そ…そんなあ！



「ザーメン…すじ…い  
お射精たくまじ過ぎ…る…」

「ふん、ブタにはお似合いのメイクだ  
お前は本当は友情だの正義感なんぞより  
目の前の巨根に屈服するのが好きなどうしようもない  
先天性のマゾブタなんだよフェイト」

おふ…う…

ん…

「精臭で自分の浅ましさを自覚出来たら  
下の口でも楽しみたくなってきたろ  
この濃密ザーメン  
また隆奥で楽しませてやるぜ」

「ハイ…  
発情マゾブタフェイトのおまんこ…  
思いつき貫いて下さい…」

鼻の穴にまで中出しされ  
眩暈を起こすような濃密な性臭に  
朦朧とした意識の中で  
また一つ強姦魔達の都合のいいオナナに  
堕ちた事を実感した



「ひん！ひん！ひん！  
すごい！おちんぼすすごい！  
ありがとうございます！  
ありがとうございます！  
ありがとうございます！  
ありがとうございます！」

「突いて欲しけりや  
チンポに謝意を示して  
その美脚を上げ続ける！」

「ハイ！従います！従います！  
なんでも従いますから  
もつと貴方のたくましさでフレイトを  
征服してくださいひゃい！」

「そうやって本性を曝け出しまくれ！  
そうすりゃなのはと並べて、なのは目の前で  
生ハメ生中出しされるお前のブザマを晒させてやる！  
どうだ嬉しいだろ！」

「ハイ！ハイ！なのは目の前で！  
なのはと一緒の男の人と  
交尾しちゃうなんて考えただけでも……！  
イク！イク！イク！イク！」



「今日は大人数集まってるモテモテだなあ　なのはちゃんよオ」

「パリシヤケ姿のエースオブエースと生ハメ出来るって聞いたら  
お前をチンポで泣かせてえって奴らが集まっちゃうってよ  
たつぷり可愛く泣かせてやっから  
期待しろや　なのはア」

「誰が泣くものですか…!」

「フエイトちゃん、はやてちゃん…  
たとえどんな事になっても絶対私が助け出すから…  
だから絶対、こんな人達には負けないで…!」



「まずは俺が一番ヤリだ！  
高町なのはと愛し合ってヤル！」

「あ、愛し合ってなんか！」

「何言ってるやがる！腕のバインド外してやってんのにな  
両腕でしがみついてくるじゃねえか！カワイイ女だぜ！」

「おうおう、熱いねお二人さん」

「違うの！  
持ち上げられて不安定だから！  
こんな熱烈に求められた事無いから！  
体が熱くて！おまんこ切なくて！  
仕方ないからあ！」

「言いつけが  
言いつけになつてねえぞ！  
オラ！イけ！なのはは！  
俺とラブキスしながら  
ラブザ！メシくらつてイケ！」

「らめッ！こんらあいし  
あつてるみらいな  
せつくすッ！  
こいびとみたいに  
だいちゃだめえ！」

「なんだなんだ  
なのはは  
チヨロ過ぎだろ」

「へへへ  
男経験の無い女つてのは  
こうやつて扱えば  
イチコロよ」

(あつちう…)

「ため！愛してるって言いながらハメるの禁止！お嫁さんにするって言うのも禁止！胸の下キ下キが止まらなく、なつちやうからハメながら言うのやめてえ！」

「ハハハ！マジでちよれえななのは！ラブりながらハメてやりやあつけなくイキやがる！じゃあこういのはどうだなのは！」



「強制的に孕ませて強制的に出産させて強制的に監禁してやる！自室に監禁してやる！毎日ガキ産ませ毎日ガキ産ませでまくつてやるからな！俺専用の赤子製造機にしてやるぞなのは！」

「ひ！ダメ！それダメ！2！惨めに強引に！愛されちやうの想像して！深イキする！なのは深イキするのお！」

「こんな歪な形でも愛をぶつけられるときめいでしまう！私に、こんな性癖あつたなんて！」





「……って言ってみろほら」

「ハイ……」

「なのははラブハメ、ラブ中出しに  
まるで弱い激チヨロおまんこメスです。  
ハメられる時、中出しされる時  
愛してる、嫁にする、と言われるだけで  
蕩け落ちて中出しを許してしまいます。」

「どうか、なのはとはハメる時は  
この弱点を刺激しまくってください。  
呆気なくこのエースオブエース、  
高町なのはが貴方のお射精を  
受精してイキまくりませう」

「よしじゃあもう一ハメ行くか  
コイツを娶るのは俺だぜ」

「ふざけるコイツは俺の嫁だ  
ぜってえ俺が孕ませでやるぜ なのは」

（ああ…私、この中の誰かに絶対娶られちゃう…）

## コメ

お買い上げいただきありがとうございます。

&

発行が遅延に遅延して申し訳ありません。  
イベント中止が重なる中で締め切りレスになる事で  
どうも尻に火が付かなくなっているのと  
最近の遅筆化が重なり、発行が2カ月も遅れてしまいました。  
おかげで作業中に次の本の衣装ネタを思いついてしまう始末。  
これは遅筆化を防ぐ訓練が必要な気がします。

とは言え、どの道遅れるのなら  
もう少しページ増やそうという事で  
12~16ページくらいのペライ本の予定だった当本を  
20ページ本に増やしました。  
それで、もっと遅れてれば世話ないぜという話ですが  
3隊長も切りよく4パターン+オマケページを設ける事が出来ました。  
そんな訳でここからはオマケページとなります。

では、次ページより

3隊長拘束折檻  
はじまるよー！



「男の味と縄の味を知ったら  
次は鞭の味を知らねえとな！なのは！」

うふうッ！

「そのふてぶてしいエロ女体に  
男に屈服した喜びを刻み込んでやるぜ！」

んふううッ！

裸で天井から吊り下げられた  
完全に無防備な私に、無遠慮に  
そして嬉々として鞭が入れたら  
痛みに身を振ればその振った方角から  
新たな鞭が入られる折檻地獄。  
快樂の次に与えられる痛みの前に  
私の心の中に奴隷としての言葉が沸きあがってきた…  
(ゆるしてください…ごしゅじんさま)

「オラ！メスヲタフエイト！  
マゾのお前に相応しい嗜好だろ！」

「感謝して鳴け！マゾヲタ！」

んんん！

んんん！

今日は三角木馬を体験した。逃げ場のない木馬の上で身を振る私に御主人様達は絶えず罵りの言葉を浴びせながら鞭を入れて下さいます。木馬におまんこを辱められ、鞭で引っぱかれる有様に執務官、隊長の理性も誇りも打ち砕かれまた一段、マゾに開花した自分を感じ、木馬に跨った間抜けな姿でイキまくりました



「あかん！おまんこ！鞭入れちゃあかん！あかん！  
女の子の大切な所！そんな物でぶつたらあかんて！」

「ありや、これスピードだ  
ま、はやて側から見りゃハートだし  
このまま叩き続けるか  
後日ちやんとしたハートまみれに  
してやるからな、はやて」

いったあッ！

や…めってッ！

懇願を無視される絶望の中  
おまんこを滅多叩きにされ  
更なる調教予告を受け  
おまんこにハートを刻まれる自分を想像しながら  
私は無様なイキ様を晒してしまおうのでした。



## BOBCATERS

奥付

誌名：3隊長拘束調教2

発行日：2021年7月

サークル：BOBCATERS

著者：波紋愛

<http://aria.saiin.net/~ng-ng/>

MAIL: [ng-ng@aria.saiin.net](mailto:ng-ng@aria.saiin.net)

印刷所



お買い上げ  
ありがとうございます。

### 注意

本書を無断転載  
アップロードをすると  
制作費がなくなって  
カラー本が作れなくなって  
続編製作の  
目途が立たなくなるので  
本書の内容の無断転載  
アップロードを禁じます。

無論、未成年の購入も  
禁止します。

My doujinshi publishing  
group, Bobcaters,  
has a stated policy of  
discontinuing publishing  
of a doujinshi series  
when a work is uploaded  
for public consumption  
without my permission.  
Please do not upload  
my publications if you  
wish to support my  
efforts to publish new  
and interesting  
doujinshis.

Thank you.